

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年10月12日(2006.10.12)

【公開番号】特開2005-89491(P2005-89491A)

【公開日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【年通号数】公開・登録公報2005-014

【出願番号】特願2003-320720(P2003-320720)

【国際特許分類】

C 08 G 18/36 (2006.01)

B 01 D 63/00 (2006.01)

C 09 K 3/10 (2006.01)

【F I】

C 08 G 18/36

B 01 D 63/00 5 0 0

C 09 K 3/10 D

C 09 K 3/10 Z

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月29日(2006.8.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 0】

ポリラクトン系ポリオールとしては、グリコール類やトリオール類の重合開始剤に、-カプロラクトン、-メチル-カプロラクトン、-メチル-カプロラクトン等、および/または-メチル-バレロラクトン等を有機金属化合物、金属キレート化合物、脂肪酸金属アシル化合物等の触媒の存在下で付加重合させたポリオールが挙げられる。ポリラクトン系ポリオールの分子量は200~5000である。なお、イソシアネート基末端プレポリマーを得るうえでポリラクトン系ポリオールを用いる場合、膜シール材の製造時に於いて成形加工性に優れるとの観点から、分子量は500~3000であることが好ましい。